

2025年10月19日（日）、第36回兵庫県理学療法学術大会において、田中PTが症例発表を行いました。演題名は「右膝関節伸展の筋力向上により右下腿の後傾が軽減し歩行スピードが向上した右人工膝関節全置換術後の一症例」であり、詳細な動作分析を通じて機能障害を抽出し、歩行動作の実用性向上に寄与した臨床的に意義深い内容でした。

田中PTは、神戸リハビリテーション衛生専門学校研究教育センターでの継続的な指導に加え、スミレ会グループ神戸3病院での予演会や院内での発表練習を重ねることで、十分な準備と自信をもって臨むことができました。今回の学会発表が3回目ということもあり、当日は落ち着いた態度でポスターの内容を丁寧に説明し、聴講者からの質問にも的確かつ誠実に対応しており、発表者としての成長がうかがえました。

学会終了後には、田中PTを囲んで指導者およびその他スタッフによる慰労会が開催されました。緊張から解放された田中PTは、終始笑顔で会話を楽しみながら、これまでの取り組みを振り返るとともに、今後の臨床・研究活動への意欲を新たにする貴重な機会になったことと思います。

今後もリハビリテーション科では、後身の育成に励み、患者様に提供するリハビリテーションの質を向上するよう取り組んでまいります。

(文責 藤原 聰)

【学会発表風景】



【打ち上げ風景】

